

出原委員（自民議連）

令和3年3月9日

教育長 答 弁 実 録

（教育委員会）

（問） 広島叡智学園の取組について

これまでの取組をどう評価し、今後、他校に展開しようとしている取組の成果とは、具体的にどのようなものを考えており、その成果をどのように県全体の教育水準の向上につなげるつもりなのか、併せて教育長に伺う。

（答）

広島叡智学園は、本県の学びの変革の取組を先導的に実践して、その成果を県内に広く普及させることで、県全体の学びの変革の早期実現につなげることを目的に設置した学校であり、昨年10月には、国際バカロレア機構から西日本の公立学校で初となるMYP、ミドル・イヤーズ・プログラムの認定を受けたところでございます。

昨年度の開校以来、大崎上島の豊かな自然や開放感あふれる学習環境を生かし、地域の課題を解決するプロジェクト学習や、効果的なデジタル機器の活用などを通して、主体的・協働的に学ぶ生徒の姿が見られるようになっており、学びの変革の取組を先導的に実践することができていると評価しております。

広島叡智学園では、例えば、プロジェクト学習として、循環型社会の形成に向けて地元の水産会社に働きかけ、かき殻の再利用に取り組んだり、生徒自身が学校のウェブページをプログラミングにより作成したりするなどの先進的な取組を行っており、こうした成果について、公開授業研究会の実施や授業動画を視聴してもらうなど、多くの教職員に発信しているところでございます。

引き続き、授業動画の公開や教職員の研修会など様々な機会を通して、学びの変革を先導的に実践した成果の普及に努め、県全体の教育水準向上につなげてまいります。